

(再評価)

資 料 4

令和3年度第1回
関東地方整備局
事業評価監視委員会

一括審議案件資料

- (1) 一般国道20号 下諏訪岡谷バイパス
- (2) 一般国道51号 成田拡幅

令和3年7月13日

国土交通省 関東地方整備局

令和3(2021)年度 第1回 事業評価監視委員会 一括審議案件一覧

事業区分	事業名	再評価理由 ※1	事業採択	前回評価	全体事業費 (億円)	完成予定年度 ※2	B/C	前回評価からの主な変更点及び理由	再評価の視点	関係自治体の意見	前回評価時の付帯意見及び対応	対応方針 (原案)
道路	1 一般国道20号 下諏訪岡谷バイパス	④	H4	H28	464	R9	1.3	前回評価から事業全体に顕著な変化は生じていない。	本事業は、交通混雑の緩和、交通安全の確保の観点から事業の必要性・重要性は高く、早期の効果発現を図ることが適切である。	(長野県知事の意見) 一般国道20号は、本県及び国土の骨格となる重要な道路であり、「下諏訪岡谷バイパス」は、地域における交通の安全・円滑化、高規格幹線道路へのアクセス性向上、観光の活性化に必要不可欠な事業です。 については、事業を継続し、積極的な予算確保と早期完成に向けた事業の推進を強く要望します。 また、事業の実施にあたっては、一層のコスト縮減に努められるようお願いいたします。	なし	継続
道路	2 一般国道51号 成田拡幅	⑤	S45	H29	263	R8	1.1	前回評価から事業費、事業期間に変更はあるが、事業全体に顕著な変化は生じていない。	本事業は、交通渋滞の緩和、交通安全の確保、産業活動の支援などの観点から事業の必要性・重要性は高く、早期の効果発現を図ることが適切である。	(千葉県知事の意見) 国道51号成田拡幅は、交通混雑の緩和や交通の安全性を確保し、道路ネットワーク機能の強化を図るうえで重要な事業である。 については、事業を継続し早期完成に向け残る用地の取得や工事を推進するとともに、コスト縮減を図るなど、効率的な事業推進に努められたい。	なし	継続

※1 再評価理由

- ①: 事業採択後3年間が経過した時点で未着工の事業
- ②: 事業採択後5年間が経過した時点で継続中の事業
- ③: 準備・計画段階で3年間が経過している事業
- ④: 再評価実施後5年間が経過している事業
- ⑤: 社会情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業

※2 費用便益比算定上設定した完成予定年度等。

(1)一般国道20号 下諏訪岡谷バイパス

1. 目的

- ・交通混雑の緩和
- ・交通安全の確保

2. 事業概要

区 間：自) 長野県諏訪郡下諏訪町東町
 ながのけん おかやししまい
 至) 長野県岡谷市今井
 ながのけん おかやししまい

計画延長・幅員：6.3km・16.0～25.0m
 車 線 数：2～4車線
 計画交通量：6,100～18,500台/日
 事業化：平成4年度
 全体事業費：約464億円

3. 事業の進捗状況等

- ・平成16年度に、L=2.9kmを暫定2車線で開通済。
 - ・平成29年度に、岡谷市今井～岡谷インター西区間L=0.8kmを完成2車線で開通済。
 - ・当該事業の用地取得率は約91%(R3.3末)。
- ※社会情勢等に大きな変化は見られない。

4. 事業の効果等

- ・交通転換に伴う国道20号(現道)の交通混雑の緩和
- ・現道の交通転換による交通安全の確保

5. 事業の投資効率性

【事業全体】	【残事業】	
(前回)	(今回)	(今回)
総便益B：667億円	B：925億円	B：464億円
総費用C：512億円	C：725億円	C：92億円
B/C=1.3	B/C=1.3	B/C=5.1

【基準値(平成28年度)】 全体事業費：約464億円

6. 概要図



7. 対応方針(原案)

- ・事業継続とする。
- ・本事業は、交通混雑の緩和、交通安全の確保の観点から事業の必要性・重要性は高く、早期の効果発現を図ることが適切である。

(2) 一般国道51号 成田拡幅

1. 目的

- ・交通混雑の緩和
- ・産業活動の支援

2. 事業概要

区間	自) 千葉県成田市飯仲 至) 千葉県成田市東金山
計画延長・幅員	5.8km・26.00m
計画線数量	4車線
計画交通量	15,400~41,700台/日
事業年度	昭和45年度
全体事業費	(前回) 約240億円 (今回) 約263億円

3. 事業の進捗状況等

- ・昭和55年度より順次4車線開通しており、現在までに4.6kmが開通済み
- ・当該事業の用地取得率は約99% (R3.3末)
- ・残事業区間については、工事着手済み
- ・地盤改良(軟弱地盤対策)範囲の増加および無電柱化計画に基づく電線共同溝整備の追加による事業費増加(約23億)
- ・地盤改良の変更および電線共同溝の追加により、事業期間を5年延伸(令和8年度)

※社会情勢等について大きな変化は見られない

4. 事業の効果等

- ・渋滞の緩和、交通事故の減少が期待される
- ・成田国際空港と周辺の観光施設のアクセス性が向上し、インバウンド観光の活性化に貢献することが期待される

5. 事業の投資効率性

【事業全体】

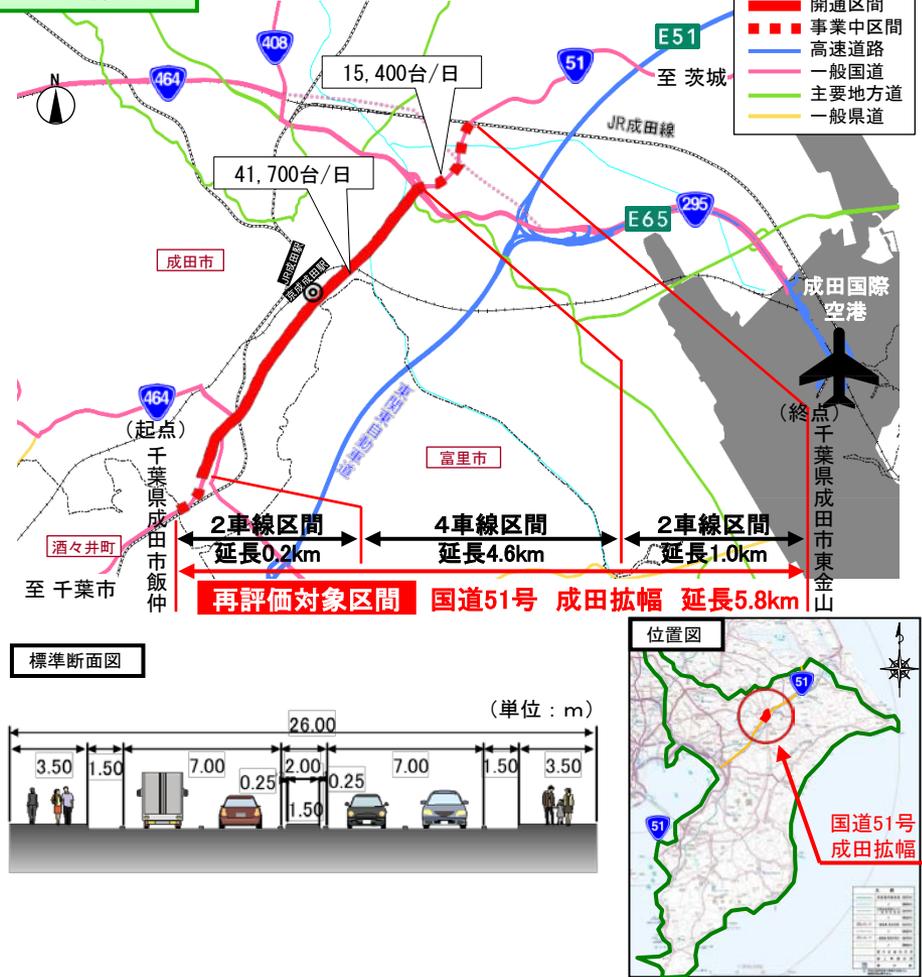
	(前回)	(今回)
総便益B:	約1,069億円	約1,108億円
総費用C:	約732億円	約1,053億円
B/C =	1.5	1.1

【残事業】

	(今回)
B:	約85億円
C:	約24億円
B/C =	3.6

【基準値(平成26年度)】全体事業費: 約240億円

6. 概要図



7. 対応方針(原案)

- ・事業継続とする。
- ・本事業は、交通渋滞の緩和、交通安全の確保、産業活動の支援などの観点から事業の必要性・重要性は高く、早期の効果発現を図ることが適切である。